

ノートの活用を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：ノートを全くとらないで授業に臨むのと、ノートを取り続けながら授業を受けるのとでは、どちらが「学習効果」が上がりますか。

A：(林明夫。以下略。) ノートを全く取らないで、深く深く考えながら授業に臨むことも時には大切です。Xという問題があると仮定します。そこには、Aという問題解決の方法とB、Cという問題解決の方法が考えられているとします。A、B、Cは、どのような基本的な考え方のもとに各々の結論にたどりつくのか。三者のちがい、その結論の妥当性、更には自分の考えは何か等を頭のシンがいたくなるまで考え続けると、ノートを取っている余裕が全く生じないこともあります。ただ、このような緊張から解き放された後は、思考の過程(プロセス)をノートに記録しておくことは大切かと思います。将棋や碁をされる人が、はじめから最後まで自分と相手の差し手をはっきり記憶しておいて、あとで基盤に再現したり、ノートに記録を残しておかれるのと似ています。このような「ノート」もあることを是非覚えておいて下さい。

Q：おどろきました。では、ノートを取った方がよいのは、どういう場合ですか。

A：教え手である先生が、ノートを取らせることを前提に授業を組み立てている場合は、ノートを取った方がよいと思います。聴いていただけでは、覚えていられないような「語句」や「考え方」、「図や式」などが紹介されたときにも、ノートは取った方がいでしょう。ただ、ノートを取ることに夢中になって、先生やクラスメイトの発表する内容を頭で「理解」することも忘れないようにして下さい。

Q：「ノートの活用」とは、どのようなことですか。

A：もしできれば、「予習」をしていて、よくわからないところがあれば、予め「ノート」に記録しておくこと。(予習は、わからないことをはっきりさせて授業に臨むためにあるためです。)

授業終了後、ジーと机に向かい、とった「ノート」の内容を何回も見直し、頭の中で授業を再現してみると「理解」が深まり、記憶の「定着」が大いにすすみます。必要なことは、書き足しもしして下さい。

Q：どんなノートがいいですか。

A：少し大き目のA版のノートをはじめからお使いになることをおすすめします。授業後の書き込みや整理が、どんどんできるのがA版だからです。では、がんばって。